

(1)『岐蘓路記』[正徳3年(1713)]

江戸時代の儒学者・貝原益軒が旅に出て感じたことを記した旅日記です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…34～35軒ほど ○細久手宿…50軒ほど
地形・景観的な特徴
① 大湫と細久手の間に琵琶坂(琵琶峠)がある。この坂から艮(北東)に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいからよく見える。西に伊吹山が見える。
その他
(特に記載なし)

(2)『木曾路名所図会』[享和2年(1713)～文化2年(1805)]

文：秋山離島、画：法橋中和が、中山道とその沿線の古事・名所などを記した書物です。



[琵琶峠]

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…(記載なし) ○細久手宿…(記載なし)
地形・景観的な特徴
① 琵琶嶺(琵琶峠)は細久手の東方、一里余りにある。道は陰しく岩石が多い。丑寅(北東)に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいからよく見える。西に伊吹山が見える。琵琶峠の下に母衣岩と岩烏帽子岩がある。
その他
(特に記載なし)

(3)『壬戌紀行』[享和2年(1802)]

江戸時代の役人(官僚)・大田南畝(蜀山人)が大阪に出張した帰路を中山道にとり、その際に記した旅日記です。『木曾の麻衣』とも呼ばれました。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…小さく、人家が少ない ○細久手宿…小さい
地形・景観的な特徴
① 梅の木坂という坂を下ると左の岨(崖)に大石がある。土橋を渡ると平岩村に至る。 ② 御嶽から細久手までの三里のうち、上り坂がほとんどで、下り坂は八町(約 870m)程度。細久手宿に入ると左(北側)に神社があり、石坂(石段)が見える。 ③ 細久手東方の道の左右は谷になっている。アセビ(馬酔木)が多い。サワギキョウ(沢桔梗)という花もある。 ④ 遠くに山が連なっているのが見える。<u>一里塚(奥之田一里塚)</u>を過ぎると芝山(雑木の生えた山)尾根道を進む。左の方に小さい池(弁天池)があり、カキツバタ(杜若)が茂り、池の中島には弁財天の祠がある。 ⑤ 松なみの中を進むと「<u>一つ屋の立場</u>」に着く。人家は2、3軒あるが、人が住んでいるのは1軒である。右(北東か)の方に笠着山(笠置山)がみえ、さらに右側には雪が積もった御嶽山が見える。 ⑥ <u>琵琶峠は石が多い。山の嶺(頂上)からは多くの山が見え、伊勢湾も望めるといふ。頂上から東側も岩が無数にある。烏帽子岩と母衣岩という巨石は目を脅かせる。</u> ⑦ 大湫宿に入ると左に大きな杉の木があり、その元に神明神社がある。 ⑧ 大湫宿の東を<u>十三峠</u>というが、詳しく尋ねると二十ほどの坂があるといい、最初の坂を寺坂、次を山神坂という。しばらく進んで、三、四町降る坂をしゃれこ坂と言い、右の方に「<u>南無観世音菩薩</u>」と彫られた石がある。 ⑨ <u>地蔵坂には右の方に大きな杉の木があり、根元に地蔵菩薩が立てられている。付近を「おつるが茶屋坂」と呼ぶのは、近くにおつるが茶屋があったためという。</u> ⑩ <u>芝山(雑木の生えた山)の松なみを上ると石が所々にあり、赤土が多い。曾根松坂という。坂を下ると左の石から水が流れていおり「順礼水」という。一里塚を過ぎて、檜ノ木坂を下り、炭焼きの五郎坂を下ると炭焼立場がある。左に権現山が見える。</u> ⑪ 鞍骨坂を少し下り、権現坂を上ると人家が3、4軒あり「多くご(大久後)」という。新道坂を下り、茶屋の原という平地に着く。向い茶屋という急坂を下り、茶屋坂という上り坂がある。
その他
① 順礼水(⑩に記載)は、普段はさほど水は出ないが、8月1日には必ず多くの水が出るといふ。これは、むかし巡礼者がこの場所で体調を崩したが、この水を飲んで命が助かったことから、今もこのようなことがあるという。